

新燃岳噴火

百人の記録

高原町教育委員会



はじめに

私達は、これまで郷土のシンボルである美しい霧島連山から多くの自然の恵みを受けてきました。ところが、平成二十三年一月二十六日、五十二年ぶりに新燃岳が噴火して、高原町では火山灰や火山礫かさんれきが降り、大きな被害を受けました。町では災害対策本部を設置して、町民の安全確保に向けて様々な対応策を執りました。

学校では、降灰のために教室や体育館、運動場が使えなくなり、数日間、給食室は閉鎖され簡易給食になりました。子ども達の登下校中の安全を確保するために、防災ヘルメットの着用や、保護者による送迎をお願いしました。特に新燃岳に近い狭野小学校は、校区一帯が避難勧告地区に指定されたため、約二週間、高原小学校の教室を借りて授業を行いました。その間、子ども達の心の不安を取り除くために、県教育委員会から臨床心理士を派遣して頂き、各学校で教育相談も行いました。その後、火砕流かさいりゅうや土石流どせきりゅうの発生を心配しながらも、教職員や保護者、地域の方々、全国のボランティアの方々等多くの皆様方の物心両面のご支援により、学校は着実に復興しました。

今回の新燃岳噴火の体験は、様々な自然災害の対策を見直す契機になりました。また、私達は、自然界への計り知れない畏怖いふの念と同時に、家族や地域の絆、郷土愛、人間愛、相互扶助の大切さ、感謝の心など、忘れかけていた日本人のよさにも気付くことができました。この貴重な経験は、決して風化させたくないと考え、ここに防災教育の副教材として記録集「新燃岳噴火百人の記録」を作成しました。本書には小・中学生から高校生、教職員や保護者、地域の方々等、百人の作文と写真や新聞記事を掲載しています。

この記録集が各学校の教育活動の中で有効に活用されることを心より願っています。

平成二十三年十一月一日

高原町教育委員会

教育長 江田 正和

小学生の部

ふん火は こわい

高原小学校

一年 えのきぞの 榎 蘭 玲音 れお

ことしの 一月、ぼくは、はじめて ふんえんを 見たとき、びっくり しました。もくもくした けむりの 中に ぴかぴかした かみなりが 見えました。はいも すごくふって あそべなく なりました。いまは おさまって ききましたが、まだ しんぱい です。

ふん火 しないで

高原小学校

一年 さいとう 斉藤 咲来 さくら

ことしの 一月、しんもえだけが ふん火しました。かぞくで ひなんすると ちゅう、山を 見ると、くろい けむりが、もこもこ 出て いました。わたしは すごく こわくなりました。いまは ふん火して いません。このまま なにも おこらないと いいです。



しんもえだけ

高原小学校

一年

久徳きゆうとく

啓太けいた

ぼくは、はじめて 山の ふん火を 見
ました。

空は くろくて、おにみたいで こわ
かったです。

ふん火する たびに、いえが ゆれて、
つぶれるかと おもいました。

ふん火の おとで、よる ねむれませ
んでした。ともだちとも あえなくて いや
でした。

しんもえだけが ふん火した

高原小学校

一年

森山もりやま

香澄かすみ

わたしが ねているとき、おとうさん
は、しょうぼうしよに いきました。おと
うさんは、しんもえだけの ちかくに す
んでいる人を ほほえみかんに つれて
いきました。かえって きたときは、あさ
になって いました。おとうさんは、がん
ばりました。



しんもえだけ ふん火

広原小学校

一年 町浦^{まちうら} 翔哉^{とうや}

しんもえだけが ふん火して、たくさん
の人が ひなんじよで せいかつして
いました。まい日 ふん火する しんぱい
や、ふあんな 人たちを 見て ぼくは、
かぞくと いっしょに いられるから し
あわせだなあと おもいました。

もう ふん火が おこらず あんしんし
てすごせる まちに なって ほしいで
す。

こわかったよ

狭野小学校

一年 児玉^{こだま} 美幸^{みゆき}

「ひなんです。」
と よびがけが あり、ほほえみかんへ
ひなんしました。こわかったです。けど、
ともだちや かぞくが いたので、ほっと
しました。



しんもえだけの ふん火

後川内小学校

一年

永峯 ながみね

謙斗 けんとう

しんもえだけが いきなり ふん火して、びっくり しました。そとに 出たら、ふん火の おいが くさかったです。ようちえんでは、ふん火で あそべなかつたです。いえに かえって、はいの そうじを しました。おかあさんと ふくろに いっぱい はいを 入れました。もう、ふって ほしくないです。でも、もし また ふん火したら、ヘルメットを かぶって、じぶんを まもります。



新もえだけの ふん火活どう

高原小学校

二年 猪上いのうえ 陽介ようすけ

今年の 一月、新もえだけが ふん火しました。

ぼくは、ふん火して たいへんだった
ことが あります。それは、食べものが、
そだたなくなつた ことです。おばあちや
んの 家の やさいも、かれて しまいま
した。その時、ぼくは、とても かなしか
ったです。

でも、まわりの 人から 親切に して
もらつて、うれしかったです。

新もえだけの ふん火

高原小学校

二年 前原まえばら 右京うきょう

今年の 一月、新もえだけが ふん火しました。

ぼくは、ふん火して 学校が 休みにな
つて、みんなに 会えませんでした。ぼく
は、みんなに 会いたかったです。

学校が ふたたび さいかいして、ぼく
はうれしかったです。学校の中に入
ると、おうえんメッセージが はって あり
ました。

ぼくは、それを 読んで、元気が 出ま
した。

新もえだけの こわさ

高原小学校

二年

瀬戸山 駿太郎

ぼくは、新もえだけの しぜんの こわさを
はじめて 知りました。ふんえんが、三千メ
ートルぐらい 上がった そうです。

おじいちゃんと いっしょに こうぎようだ
ん地に 行きました。ふんえんが 出て いま
した。

かみなりも なって こわかったです。ふん
石が とんで きて、夜一時に 赤い マグマ
が見えました。ぼくは、こわいなと 思いま
した。早く おさまって ほしいです。

こわかったこと

高原小学校

二年

増田 和

ふん火を していないときは、山は きれい
でした。だけど、ふん火が はじまったら
こわく なりました。雲が もくもく 上がっ
て、空が ぐらく なって、お兄さんと お母
さんと わたしで、いなびかりを 見ました。
とても こわかったです。

それから、外のはいそうじや やねのは
いそうじは たいへんでした。たくさん はい
が ふったり、ふん石も いっぱい とんで
きたりする ことに びつくり しました。

もとの きれいな 山に なって ほしいで
す。

新もえだけの ふん火

広原小学校

二年 原田 はらだ 雄大 ゆうだい

一年生のころ、新もえだけの ふん火がありました。家の まわりや どうろが、はいだらけでした。

外に 出ると、目が いたくて あそべなかつたから がっかりしました。ふん火が なければいいのにと 思いました。

でも、お母さんたちは、はいが ふつていても、牛の おしごとを してました。牛ごやの やねにも いっぱい はいがつもって いました。

お母さんたちは、目が いたくないのか なあと 思いました。

夜に お父さんが、

「雄大、きてみる。」

と 言いました。山を 見たら、ふん火の けむりが、ものすごく 上がって いました。

ぼくは、ぜったい おさまってと 思いました。



ふん火かつどうから 学んだこと

狭野小学校

二年 廣山^{ひろやま} 陽輝^{はるき}

一月に 新もえだけが ふん火しました。
けむりが もくもくと 上がってきて、こ
わかったです。

さの小学校が へいさされたので、高原
小学校で じゆぎょうを することに な
りました。友だちも できて、先生たちに
も いろいろ おせわに になりました。

それに、いろいろな 人や 学校から、
パンや マスク、お手紙も いただきまし
た。とても ありがたく、うれしかったです。
ぼくも、こまっている 人には、やさし
くして あげられるように なりたいです。

新もえだけが ふん火して

後川内小学校

二年 西川^{にしかわ} 泰我^{たいが}

ぼくは、新もえだけが ふん火を した
ときに、学んだことが 二つ あります。
一つは、ふん石が 頭に おちると、き
けんなんだと いうことです。

もう一つは、ふん火して おちてきた
大きい石や 小さい石は、まだ あついか
ら ぜったいに さわっては いけないこ
とを 学びました。

ほかにも いっぱい きけんなことが
あるかも しれないけど、今は、この二つ
を まもりたいです。

新もえだけのふん火

高原小学校

三年 麦生田 龍斗

ぼくの家から見えるきれいでおだやかな山が大ふん火しました。黒いけむりが空いっぱいになり、イナズマが走っていました。とてもぶきみでこわかったです。雨のように、はいや石がふってきて外は別世界になっていました。

夜になると、家がガタガタとゆれていました。

ぼくは、自然の力はすごいなあと思いました。いつまで起こるか分からないので、十分に気を付けたいと思います。

新もえだけの大ふん火

高原小学校

三年 草薙 楓夏

一月二十六日に、新もえだけがふん火しました。わたしは、学校の帰りだったので、そのふん火を見て、走って帰りました。しかし、帰りついてもだれもいなかった。泣きそうになりました。

その後すぐに、お兄ちゃんが帰ってきました。

さらにふん火がひどくなってきたので、おばあちゃんの家に行き、お父さんやお母さんがおつかえに来ると、やっと安心しました。

新もえだけから学んだこと

高原小学校

三年 青木 陽依

一月三十日の夜中、ひなん指示が出たので、すぐに物を持ってひなんしました。しかし、家でかっている犬をおいてきた事や、土石流が家の方に来ないか、ひなんしている間が、とても心配でした。

そんな中、宮崎の人やその他の県の人が心配してくれたことが、わたしの元気にながりました。

これからは、おうえんしてくれる人もいるので、山に負けないようにがんばりたいです。

新もえだけで学んだこと

高原小学校

三年 小村 将太

一月二十六日に新もえだけがふん火しました。空を見上げると、けむりが立ち上がり、はいが家のまわりにふってきました。

次の日の朝、車や道路に、はいがつもっていました。今まで見たことのない出来事でおどろきました。ふん火は、いつ終わるのか心配でした。学校に行く時もヘルメットをかぶるようになりました。

三月ぐらいに少しおさまり安心しましたが、今回のふん火で自然のすることはこわいと思いました。

新もえだけふん火から学んだこと

広原小学校

三年 丸山 未悠人

ぼくは、新もえだけのふん火から学んだことが一つあります。

それは、こまっている人がいたら助けてあげるということです。

新もえだけがふん火した時に、りんごやヘルメットをたくさん送ってくれた人がいて、ぼくは本当にうれしかったです。だから、ぼくも、ほかの人がこまっている時に助けてあげられる人になりたいです。

自ぜんのこわさを知った

狭野小学校

三年 富田 奈生

一月二十六日、大ふん火が起きました。わたしは、大ふん火で、はじめて自ぜんのこわさを知りました。わたしは、目の前で赤い火の玉が、何こも落ちて来て当たる所を見ました。赤いほのおがわたしの家をおそって来るみたいでした。屋根にあながあきました。

ねる時は、ガタガタとゆれてねむれませんでした。わたしは、体がふるえあがり、今まで一度も味わったことのないこわさを感じました。早くふん火がおさまってほしいです。

やっぱり山が大すき

狭野小学校

三年 加世田 真結

一月二十六日に新もえがふん火しました。
黒いけむりがもくもくと上がっていました。
た。

まるでわたしの家におそいかかってくるよ
うでした。

今まで山は、自ぜんで美しいことだけを考え
ていました。この時は、こわいこともあると
知りました。

でも山は、いつもわたしたちを見守ってくれ
るお母さんみたいなのです。わたしは山が大
すきです。

新もえだけがふん火して

後川内小学校

三年 星山 彩奈

一月二十六日に、新もえだけがふん火し
ました。私は、はじめてこのような事が起
きたので、こわいなあと思いました。

その後も、何度もふん火が起き、時には、
はいまでふってきた時もありました。だか
ら、登下校の時は、ヘルメットを着け、マ
スクも着けました。

きゆう食は、パンとバナナ、デザートと
牛にゆうだけでした。でも、これだけで、
私はありがたいなあと思いました。

青森からはリングゴ、いろいろな方からピ
スケットやマスクなどしえん物しもとき
ました。とてもありがたかったです。

今は、新もえだけがおさまっています
が、いつ、また、ふん火するのか分かりま
せん。いつも気をつけておきたいです。

新もえだけのふん火で学んだこと

高原小学校

四年 九嶋 恵舜

一月二十六日、新もえだけがふん火しました。ぼくは、新もえだけがふん火して、いろいろなことを学びました。

一つ目は、みんなで協力しなくてはいけないということです。こまっている人がいたら助けたり、みんなのことを気にして手伝ったりしたいです。

二つ目は、自分の身は、自分で守るということです。ふん火が飛んできてもだいじょうぶなように少し重いけど、ヘルメットをかぶることです。

三つ目は、新もえだけがふん火しても、こわがらないで、どうどくと立ち向かうことです。いつまでも、こわがっていたら、何にも出来ないからです。

ぼくは、これから新もえだけについて、いろいろなことを調べてみたいです。

新もえだけのふん火と私の気持ち

高原小学校

四年 古川 未羽

一月二十六日に新もえだけがふん火しました。

学校では、新もえだけのふん火のことをみんなとても心配しているので、話すこともふん火のことが多くなりました。私は、

「これから、どうなるの。」

と聞いても、だれも分かりませんでした。

家でも、お父さんやお母さんが新もえだけの話をしていました。

ふん火して数日たった夜、

「きけんです。ひなんして下さい。」

と消防署の人が言ったので、私たち家族は、すぐ起きてほほえみ館まで、ひなんしました。

「たくさんの方が、ひなんしてきているね。心配だよ。」

と私は言いました。みんな大変でした。

このふん火で、たくさんの人からしえんや勇気をもらいました。お礼の分、みんなで力を合わせて、乗りこえていきたいです。

新もえだけふん火について

高原小学校

四年 廣山 泉貴

私は、新もえだけふん火からいろいろな事を知りました。

第一におどろいた事は、ひなんかんこくで、ほほえみ館にひなんした事です。理由は、何回かふん火していてひどいじょうたいには、なっていたけど、まさか、それも、夜中にひなんなんて思ってもいなかったからです。

第二に不安に思った事は、もっとひどいじょうたいになったらどうしようと思いました。理由は、もし、ひどくなったら、火さい流や、土石流が流れてくる可のうせいが高いからです。

第三にほっとした事は、ひなんかいじよされた事です。理由は、やっと家に帰れてうれしかったからです。でも、またひなんかんこくが出るかとも思いました。

第四にこわかった事は、ふん火して、イナズマのように光った時です。理由は、いつもだったら、黒いけむりなのに、赤色、黄色といろんな色に光ったからです。これからは、ふん火がどうなるか注意をしながら毎日をすごしたいです。

新もえだけのふん火を体験して

高原小学校

四年 田原 琢朗

ぼくは、今回の新もえだけのふん火を体験して、いろいろなことを考えました。

まず、自然はすごいというか、こわいということ。とつ然ふん火し、ふん石やはいをふらせました。ぼくだんが落ちたのかと思う位の音がしたり、ガタガタとゆれたりしました。

次に、人はやさしいなと思いました。多くのしえん物しが来たり、はげましの手紙が来たり、きよ人軍の選手が来たりしました。野球が好きならば、すぐくうれしかったです。

最後に、ふん火をするのはこわいけど、山はあった方がいいということ。自然がゆたかなのは、高原町らしいからです。

ぼくは、ふん火する前に家族で山登りをしようと話していました。早くふん火活動がおさまって山登りがしたいです。

まだまだ安心はできないので、毎日山を見ていきたいです。

新もえだけがふん火した時

広原小学校

四年 増田 稜

一月二十六日、午後からみんながベランダに出てさわいでいた。よく見ると、山からもくもくとしたふんえんが出ていた。空は暗くなった。

夜、テレビを見たら、

「新もえだけがふん火した。」

と言っていた。その一言を聞いてぼくは、こう思った。

「よう岩は流れて来ないか。みんなはどうしているのか。」

ねる前にふん火の「ダン。」というにぶい音がした。ねている時には空しんで、まどガラスが、「ゴトゴトゴト。」とゆれてねむれなかった。「いつもの平和はどこにいったのか。」と思った。

次の日、外を見ておどろいた。なぜなら、外は灰の海になっていた。車が通るたびに灰がまき上がって、たちまち前が見えなくなつて大変だった。

今は、大きなふん火は起きていないけれど、まだ安心はできない。ぼうさい教室で学習した事を生かしてこれからも気を付けて生活していこうと思う。

「新もえだけ大ふん火」

狭野小学校

四年 加藤 勇斗

一月二十六日に、新もえだけがふん火しました。ふん火は三百年ぶりでした。たくさんふん火が起きました。そして、ふん石もたくさんふつてきました。はいは町や車を真っ白にするぐらいふりました。家の外に出てみたら、道路を走る車が見えないくらいでした。まるで、まよい道にまよいこんだように先が見えませんでした。

一月三十一日に、ひなんかん告が出されました。ほほほえみ館やしんせきの家にひなんしました。ほほえみ館では、多ぜいの人たちがいました。

その後、二月一日から二月十日まで、高原小の友達と、勉強したり遊んだりしました。また、体育館では、野球のきょ人の人たちがはげましに来てくれました。お米やサインをくれました。うれしかったです。

もう新もえだけがふん火をしてほしくありません。ふん石もはいもふつてきてほしくありません。土石流も起きてほしくありません。

新もえだけふん火

狭野小学校

四年 増田 隼

ふん火をしました。ぼくは、生まれて初めて、ふん火を見たのでびっくりしました。

ふん火したけむりは、まっ黒でした。そして、次の日もふん火をしました。家は、はいが積もり、工場には、軽石などがふってきました。

一月三十一日の夜、ひなんじょうほうが出ました。ぼくは急に起こされたので、おこりそうでした。だけど、ひなんと言うのでびっくりしました。

けれどほほえみ館が満員だったので、西小林に行きました。西小林は住みづらかったです。だけどなれてきました。

あまりふん火しなくなり、家に帰ると、家の前が真っ白でした。ぼくはふん火しないか心配でした。工場では、お父さんがはいを取っていました。

自然はこわいけど、自然があるからおいしい水が飲めたり、おいしい米を食べたりできるんだと分かりました。

新もえだけのふん火

後川内小学校

四年 石ヶ野 里美

私は、新もえだけふん火でこわかった思いをしたことを書きます。

まさか、きり島連山の新もえだけが一月下じゆんにふん火するとは少しも思いませんでした。今までずっとふん火することはないだろうと思っていました。

でもちがいました。生まれて初めて見るふん火はこわかったです。日本が今、台風やつ波でおそれる合図かと思いました。

ふん火で学校がお休みの日がありました。次の日、学校に行くつくえがざらざらしていました。それは火山ばいでした。

私は町を大切にし、ふん火に負けないように生きていきたいです。私は山が好きです、それは、景色がすごく良くて、気分が良くなるからです。

早く新もえだけがふん火しなくなるといいなと思います。

新燃だけのふん火を体験して

高原小学校 五年 平野 茉葉

一月二十七日の夕方、大きなふん火がおきました。二十六日の朝から小さなふん火はおきていましたが、こんなに大きなふん火が起きるとは思いませんでした。その後もふん火が続き、心配になりました。

しかし、テレビでそのことを知った全国の方々が手紙や支えん物資を送ってきてくださいました。私たちは、それをとても感しゃしました。

今でも、送ってきてくださった支えん物資の記録や手紙は、学校にけい示されています。私は、それを見る度に心が温かくなります。

私が新燃だけふん火で学んだことは、助け合いのすばらしさです。地域同士で助け合うことが大切だと思いました。そして、地域同士だけでなく、友達同士、家族同士でも当てはまることだと思います。

私は、全国の方々の思いをつなげたいです。

新燃だけふん火で学んだこと

高原小学校 五年 楠元 里奈

私が、新燃だけふん火を目の当たりにして学んだこと。それは、まず第一に自然は時にはとてもおそろしいということです。人間にはどうすることもできないので、ひなんの仕方や身の守り方などを考えました。

二つ目に感じたことは、ひなんの生活はすごくつらいということです。私はひなんしていませんが、ニュースや地域の方々からの話を聞いて、お風ろやせんたくななど、いつも当たり前にしていたことができなくなる不便さを耳にしました。今、いつも通りに生活していることをありがたく感じています。

これらを通して私が学んだことは、あぶない目にあっても、みんなが笑顔であればいいということです。なぜなら、一人でも二人でも笑顔があればどんな他の人たちにも伝わって笑顔になっていくからです。私は、この笑顔の力のすごさを改めて実感しました。

山とともに

高原小学校 五年 大迫 廉

とつぜんだった。一月二十六日、ぼくはおどろいた。今はおだやかな山が、大きな音を出した。外に出てみると、新もえだけがふん火していた。ぼくは、初めて山がふん火するのを見てこわくなつた。お父さんが仕事から帰ってきてお父さんもおどろいていた。ぼくの家からすぐ近くだったから、夜すごい空しんでねむれなくて外に出て山を見てみると、いな光りやふんえんがすごかった。朝になり、外を見てみると、すごい量の火山灰がふっていた。ニュースも新もえだけの事でいっぱいだった。学校もマスクやヘルメットを着用して行くようになった。

山が一回ふん火しただけで、すごいことになり、自然の力を思い知った。今は、おだやかだけど、いつふん火するか分からない。少しこわいけど、この山とともにすごしていきたい。

人の心

高原小学校 五年 大浦 ゆりか

一月二十六日に、新もえだけが何十年ぶりにふん火しました。空は、灰色で、けむりは、おそろしいいきおいで、わたし達の頭の上にせまってきました。

新もえだけがふん火してから、わたし達は色々な人達から支えんしてもらいました。日本全国の人達が、物資やぎえん金等を送ってくれたり、ボランティアの人達がじよ去をしてくれたり、知らない人達がわたし達のために、一生けん命にくれた事をありがたく思いました。

わたしは、人と人とのつながりや助け合うことの大切さを強く感じました。もし、苦しんでいた、こまっていたりする人達がいたら、今度は、わたしがその人達の支えになろうと思います。

わたしが、新もえだけふん火で学んだことは、「助け合う心」と「ほう仕の心」です。

新燃だけふん火から学んだこと

広原小学校 五年 荒殿 大翔

一月二十六日、新燃だけがふん火しました。たくさん灰が降り空し人も続きました。その大変な時に、学んだことがあります。

それは、日本全国の人たちが支えてくれたことです。りんごやパン、非常食など、たくさん支えん物資をいただきました。とてもうれしかったです。

それ以外にも学んだことがあります。それは、これから先、いつまた新燃だけがふん火するかわからないということです。ぼくたちは、自分の命を守るために、どうすればいいのか考えるようになりしました。ヘルメットも貸してもらい、いつも身に付けるようにしています。

新燃だけのふん火は、自然の力によるもので、ぼくたち人間には、どうすることもできません。だけど、たくさんさんの人のやさしさに支えられ、力を合わせて乗りこえていきたいです。

新燃だけふん火

狭野小学校 五年 丸山 妃成乃

みなさんは、初めて新燃だけがふん火した日の事を覚えていますか。

初めてふん火した日は、わたしが学校から家に帰る時に「ドカーン」といってふん火しました。その勢いはとてもすさまじかったです。

その日から、次の日もまた次の日も、ふん火をおこし、ふん石や灰がふってきました。車のフロントガラスにあなごが空いたり、空しんでまどがゆれたりして被害がとてもひどいから、一日でも早くふん火がおさまってほしいという気持ちでいっぱいです。

わたしがふん火を通して学んだ事は、こう灰で野菜がだめになったり、車のガラスがわれたりとおわしたちのくらしにえいきょうが出るという事です。

今はあまり目立った動きはしていませんが、一日も早くふん火がおさまってほしいです。

新もえだけから学んだこと

狭野小学校 五年 川野 美里

一月二十六日に、新もえだけがふん火しました。学校で、登校中ふん火したらどこの場所にひなんするかを話しました。わたしたちの通る場所は、田ぼだらけで、あまり家がありません。だからお母さんたちとすごくなやみました。家があるときは家に行つて木があるところは木の下にげようと思ひました。

ある大学の先生がヘルメットがどれだけ必要かを教えてくれました。

聞いていてヘルメットがないとすごいけがをするんだなと学びました。だからこれからもわすれずにヘルメットを持つていこうと思ひました。

わたしは登校はんのはん長なので一年生もいるのでもし登校中に新もえだけがふん火をしたら、安全な場所にひなんして、みんながけがをしないようにしたいと思ひます。

新燃だけのふん火で学んだこと

後川内小学校 五年 春山 洸陽

一番最初に新燃だけの大きなふん火があったのは、今年の一月二十六日でした。そのふん火はとても大きく空全体にふんえんが上がっていました。

二日後ぐらいには、狭野の人たちが、みんな「ほえみ館」にひなんしました。そこでの生活は苦しかったと思ひます。

それから、ぼくたちのために全国の方々からマスクなどたくさんのを支えんしていただきました。とてもうれしかったです。日本の人たちの優しさを学ぶことができました。

これをきっかけに、ぼくたちも狭野小の人たちにおもちゃやえんぴつなどを支えんする取組もしました。困っている人のことを自分のこととして考えることもできました。

このふん火で、全国の人たちの思いを知ることができました。

新燃だけから学んだこと

高原小学校 六年 西川 大樹

ぼくは、今年ふん火した新燃だけから学んだことが二つあります。

一つ目は、自然災害のおそろしさです。新燃だけがふん火してから何日か後に、車の窓が割られていたり、畑に灰が二センチくらい積もっていたりといういろいろなニュースを見ました。そして、何よりもふん火でひなんした人たちの不自由なくらしを見てみると、ぼくたちまで苦しくなってきました、とてもかわいそうでした。

二つ目は、他県の人達の心のあたたかさです。ふん火した時に、たくさんの支えんやメッセージにはげまされました。他の小学校の人たちに本当にありがたいと言いたいです。そして、今、東北で大しん災が起こっています。ぼくは、支えんをしてくれたその東北の人たちに、少しでもお金などできるだけのことをやって高原からの恩返しをしていきたいです。

新燃だけのふん火から学んだこと

高原小学校 六年 吹上 幹人

一月二十六日、新燃だけがふん火しました。ぼくは、一月二十六日にこれからふん火するのも知らずに、いつものように米を食べるために米を精米していました。そして帰りに、「ドーン」という大きな音がして、黒いけむりがもくもくと山から出てきて、その黒いけむりの中でいわずまが現れたのでおどろきました。その日の夜にまっ赤に新燃だけがふん火したのをニュースで見ました。そのときぼくは、きょうふを感じました。

ぼくが、新燃だけのふん火で一番心に残ったことは、県外からの支えん物資です。とてもうれしかったし、人が協力することによってえられる人のあたたかさややさしさを感じました。

今、東日本大しん災で東北の方々が大変ですが、ふん火の時、お世話になったぼくたちが協力してできることをしていきたいです。

新燃だけふん火

高原小学校 六年 古川 陽仁

一月二十六日に新燃だけが大きな音をたて、ふん火しました。新燃だけは高原町に大きなえいきょうをあたえました。

一つ目は、火山灰です。ぼくたちは火山灰のえいきょうで、学校が休みになったり、マスクをつけたり、ヘルメットをかぶったりして、登校しなければならなくなりました。

二つ目は大きな音です。夜に「ドーンドーン」と音をたて夜はねむれない日が多かったです。

三つ目は人々の不安です。ぼくは、「高原町はどうなるのかなあ」と思いました。でも、全国からの手紙が届いたり支えん物資をもらったりして全国の人々にはげまされました。

これからこういうことが起きてもくじけないでがんばっていききたいです。

新燃だけを知った一月二十六日

高原小学校 六年 日隈 凜華

わたしは、新燃だけの存在すら知りませんでした。でも、一月二十六日その日から、新燃だけの存在を知りました。

一月二十六日、午後小規模ふん火をし、その後にも夜、赤い火柱をあげてふん火しました。わたしは、午後の小規模ふん火を学校で、窓から空を見上げながら見ていました。その時には、何だろうと友達と関係ないように会話をしていました。しかし、家に帰ってニュースを見ると、その重大さに気づきました。

一月二十六日灰が降り、雪景色のように灰色の世界が広がりました。灰を見たのは初めてでびっくりしました。

今回の新燃だけのふん火で私は、新燃だけの存在、そして他の県とのチームワークを感じました。わたし達にうれしかった出来事は、支えん物資がたくさん来た事です。このように私もだれかが困っていたら助けられる人になりたいです。

新燃だけから学んだこと

広原小学校 六年 入佐 啓介

五十二年ぶりにふん火した新燃だけは、人々や農ちく産物に大きな被害をあたえた。

ぼくは、夏休みの自由研究で、新燃だけについて調べるため、役場の谷山さんにインタビューをした。そこで、ふん火の被害に負けないと、がんばっている人達のことを知った。

火山灰を売った利益を東日本大しん災の義援金にしたり、「もえたん」というキャラクターを作ったりして活動している青年団。肉や魚をおいしくするために、「灰干し」にちょう戦しているNPO法人、たかはるハートム。その他にも、様々なかたちで、ボランティアをしている人が大勢いることを知った。

僕は、これらから新燃だけが、ふん火したことを、悪い方向で考えずに、プラスのイメージで考えたいということを学んだ。だから、これから自分にどんなことが起こってもいい方向で考えて行動しようと思った。

新燃だけによってできた友達ときずな

狭野小学校 六年 大始良 天奈

「ゴロゴロ」と黒えんを上げてふん火した新燃だけ。そのため、わたしの生活が変わりました。

噴火でわたし達は、となりの高原小学校で勉強することになりました。初めは不安と緊張でドキドキしていました。でも、高原小学校のみんなが声をかけてくれたり、学校のことなどを親切に教えてくれたりしました。休み時間になったらわたしの達の教室である家庭科室まで遊びに来てくれました。また、一緒に給食を食べてくれました。わたし達は、いつも八人だけの生活なので、たくさんの友達と話ができてうれしく思いました。先生から狭野小に帰って勉強することを聞いたときは、残念だと思っぐらいでした。

新燃だけのふん火で苦労したこともたくさんあったけど、それに負けなくらいたくさんさんの友達ときずなができました。

「当たりまえ」の大切さ

狭野小学校 六年 倉住 華美

狭野小学校から見えるきり島山は、いつもおだやかで、わたしたちを見守っているように見えません。そんなきり島山の新燃だけが一月二十六日に、突然、大ふん火をしました。

その日、わたしは学校にいました。ふん火する様子を見て、びっくりしました。夜は山から赤い溶岩が、飛び散り、ごろごろと音を立てながら地面がふるえ、ねむれませんでした。その日から外は灰だらけになり、学校が休みになってとても大変でした。また、突然、ひなんかん告が出され、私は親せきの家に泊まりました。学校で勉強をし、自分の家に帰り、食事や入浴など、当たり前に行っていたことが、とても大切なことだったということを考えました。

ふん火したことはとても大変でしたが、そのことで、わたしは「当たり前」の大切さを学ぶことができました。

新燃だけのふん火で学んだこと

後川内小学校 六年 正入木 涼夏

わたしが新燃だけふん火で学んだことは、協力することの大切さです。

ひ害を受けた地域は、全国の方々からもたくさんのお金や支えんをいただきました。わたしたちは、この全国の方々からいただいた優しさによって、とても元気になりました。

わたしたちが大変な時に、わたしたちの知らないところでいろいろな働きかけをしてくださった方々に、とても感謝しています。

みんなと協力すれば、どんなに苦しくてもがんばれるということが分かりました。

今、東北のみなさんが大変なことになっているので、今度はわたしたちが東北のみなさんを少しでも助けていきたいです。

新燃だけふん火で学んだことは、今までに感じたことのなかったものが多かったです。この経験を生かしてこれからもみんなと協力していこうと思います。

中学生の部

新燃岳の噴火を通して

高原中学校 一年 川野 美優

一月二十六日の三時四十分ごろ、私は少年団があるため、学校の図書室で自習をしていました。外を見ると少しくす暗くて、外から大きな声で「山が噴火してる。」

と聞こえたので、見ると山からもくもくと雨雲のような色をしたものが学校の校舎の上であり、とても怖かったです。その日は、少年団はありませんでした。

その後、急に「ガタガタ」と音がして、外を見ると山から噴煙と雷が見えました。その夜は、外が怖くて、眠れませんでした。

朝、外が気になり、カーテンを開けると、灰色一色になっていて、とてもびっくりしました。その日は、お父さんとお母さんは仕事だったので、ばあちゃんの家に行きました。

ばあちゃんが、「ばあちゃんが小学校の時にも、大きな噴火があったんだよ。」と教えてくれました。

私は、山が噴火するたびに恐くて、お母さんに

電話をしました。

それから、何日か学校が休みになり、毎日がとても怖くて不安でした。

そして、やっと学校に行けるようになった時、みんなと会えてうれしかったです。

でも、山の噴火が気になり、あまり集中できませんでした。

それから、少しの音でも敏感になるようになりました。噴火のことを考えるだけで頭が痛くなることもありました。

支援も沢山届き、元気も出てきました。はやく、噴火がおさまるといいです。



新燃岳の噴火を通して

高原中学校 一年 入木 泰成

今年の一月二十六日に、新燃岳が噴火しました。その時、ぼくは友達と遊んでいました。突然、太陽がかくれました。ぼくは、

「ただの雲にしては大きいね。」

と言いました。ところが、三十分ぐらいたってても雲が続いていて、おかしいなと思いました。不安だったので、山の方を見てみました。すると、新燃岳からゴーゴーと噴煙が上がっていました。ぼくは、こんな身近な山でこんなことがあるんだなと思いました。なぜなら、その山は去年の遠足で登った山で、その時は噴火の気配を全く感じなかったからです。噴火した時はいつまで続くのか、とても心配になりました。

二日目は、ぼくが下校している時に噴火しました。いきなりドカーンと噴火したので、びっくりしてダッシュで家に帰りました。その日は、噴火が危険で外に出られませんでした。

次の日、硫黄のにおいがあったので、外に出てみました。すると、辺り一面灰が降っていました。お母さんから、

「今日は学校は休みだよ。」

と言われました。テレビをつけると、新燃岳のニュースがほとんどでした。

数日後に、火山の噴火で飛んでくる噴石から頭を守るヘルメットが配られました。最初は、とても勝手が悪かったです。でも、噴石から頭を守る大事な物だと思って、毎日ヘルメットをかぶりました。

噴火した時は、車が通ると灰が舞っていたけれど、最近は舞っていないので、みなさんのおかげだと思います。これからも、火山に注意していきたいです。



新燃岳が噴火

高原中学校 一年 鴨 海月

一月二十六日、約五十二年ぶりに新燃岳が中規模な噴火をしました。噴火している時、私は、新燃岳から約八キロメートルにある狭野のおばあちゃんの家に行きました。噴煙が空を覆って、いって、みるみるうちに灰に覆われていきました。どんどん暗くなり、鳥たちがごんごん逃げていくのを見て、すぐ恐怖心におそわれました。鳥たちは色々な事に敏感で身の危険を感じると、すぐに避難するということを知っています。噴煙を見たのは初めてで、驚きで立ちすくんでいました。

夜になると、大きな噴火がおきて、おばあちゃんとはほえみ館に避難しました。ほえみ館に着いたら、安心してすぐに寝ました。それから、狭野小学校には灰の影響で行けなくなり、高原小学校にお世話になることになりました。最初は、沢山の人がいて、上手く仲良くできるか不安でした。少しすると、友達が出来て安心しました。高原小学校は明るくて面白い学校だと思いました。

狭野小の掃除の時、真っ白になった学校を見てびっくりしました。

今は、あまり大きな噴火はないけれど、いつ噴火してもおかしくないのです。いつも気をつけています。今は、小さな噴火で、おさまっているけれど、雲仙普賢岳のように、何年も過ぎた後に、大きな噴火があるかもしれないので、新燃岳に注意していきたいと思います。

私は、こんな貴重な経験をし、色々なことを知ることができたので、今学んだ事などを大人になっても覚えていきたいです。



新燃岳の噴火を通して

高原中学校 一年 原田 沙也加

今回の新燃岳の噴火を通して、考えたことがいくつもあります。

一月二十六日、新燃岳が噴火し、灰色のような雲がもくもくと上がり、驚きました。

そして、何日か後には、灰が降り、異臭がしてくさかったです。だから、外に洗濯物を干すことができず、部屋に干していたので、とても大変でした。

学校では、体育の授業や昼休みなどに、運動場が使えなくなり、残念でした。

ある日、降灰が原因で臨時休校となりました。みんなに会えないことがさみしく、これからこのようなことが起こるのかと心配になりました。

また、真夜中に寝ていると、障子やいろいろなものが「ガタガタ」とゆれて、起きて外を見てみると、新燃岳が赤やオレンジの色で燃えていて、こっちにながれてくるようで、

「今日、死ぬのなあ」と思いました。

他にも、このようなことがありました。朝起き

て窓から外を見ると、木が白くなっていたので、

「えっ、雪が降っている。」

とあって、母に言ったら、

「お母さんも雪かと思ったら、灰だよ。」

と言われたので驚きました。

学校では、マスク着用になり、車での登下校になりました。車での登下校は、私達にとっては良かったけれど、親は大変だったと思います。

学校での給食は、給食室に灰が入り込んでいたため、簡易給食となり、パン、ヨーグルト、バナナなどの給食でした。けれど、いろいろな方からの支援があり、ドーナツなどももらうことができました。

このように、噴火で、大変なことがたくさんあったけれど、他県やいろいろな地域からの支援があつて、人の温かさをとても知ることができました。

他県やさまざまな地域から支援された分、私もたくさん支援していきたいです。

新燃岳の噴火

高原中学校 一年 八木 佐千代

一月二十六日、新燃岳が爆発的噴火をしました。私は小学生で、下校途中に、新燃岳からたくさんの噴煙が出ているのを見ました。私は、初めて見た光景に、すごくゾツとしました。

そして、次の日には、学校が臨時休校になりました。学校の友達や地域の方が避難をしたり、日常生活に、すごく大きな影響をおよぼしました。また、火山灰が降ってきたことが原因で、道路が滑ったり、周りが灰で白くなって、周りが見えなかったりして、すごく怖かったです。

それから、私はすごく大きな経験をしました。通っていた狭野小学校が、授業を受けられない状態になったので、隣の高原小学校で授業をする事になったのです。やっと、友達に会えたり、勉強ができたりするとうれしい気持ちになった反面、高原小学校で勉強するのは初めてなので、不安がたくさんありました。でも、通ってみると、高原小学校のみなさんは、各学年の教室を用意してくれたり、給食の準備をしてくれたり、本当に親切にしてくれました。そして、全国の方々からも、

支援物資をいただいで、すごくうれしい気持ちになりました。

噴火が落ち着いて、狭野小学校にもどってからも全国や、いろいろなところから、励ましの言葉や、支援物資が絶えず届きました。本当に、ありがたく思いました。

今回の噴火を経験して、たくさん怖い思いをしました。でも、それ以上に学んだことがあります。それは、人のやさしさや思いやりです。私は今まで、人がしている良い事をあたり前のように思っていました。でも、新燃岳が噴火して、いろいろな人に助けてもらって、とてもありがたみを感じました。けれど、今まで周りの人達がしてくれたたことに、感謝の気持ちを伝えてなかったことがありました。これからは、どんなに小さなことでも、周りの人がしてくれたことに感謝の気持ちを伝えて、今度は、私が人の役に立てるような行いを、していきたいです。

最後に、新燃岳の噴火が早く終息することを願います。

新燃岳の噴火を通して

高原中学校 一年 丸山 莉奈

一月二十六日、外で体育の授業を受けていた時、新燃岳が噴火しました。みんなパニックの状態でした。家に帰る時、どんどん暗くなっていった、すごく怖かったです。数日間噴火は続き、高原だけでなく小林・都城・鹿児島まで被害が広がり、大変でした。

私は、花堂に住んでいて、火砕流の心配があり、一月三十日の夜中に避難しました。避難所に行く途中、新燃岳が赤くなっていて、石が飛んでいるのが分かりました。避難所では、受験前の中学生がずっと勉強していました。いすやテーブルがない所での勉強はとても大変そうでした。

避難所には、たくさんの方の支援物資が送られてきました。そして、たくさんの方が協力して、みんな支え合って生活していました。学校にも、たくさんの方の支援物資が届きました。マスクや手紙、ぞうきんやおかしなど、たくさんの方の支援を受けました。読売ジャイアンツの方々も、私たちのために、わざわざ来てくださいました。みんなうれしかったです。高校生の方々は、グラウンドをきれいに

してくださいました。とてもきれいになったので、先生がいる時は、外で遊んでもよいということになり、久しぶりに外で遊べました。

このように、たくさんの方からたくさんの方の支援を受けました。たくさんの方の支援を受けたので、今回の東日本大震災で被災された皆さんに恩返しできよう、自分ができることをたくさんしていきたいと思っています。



新燃岳噴火をふり返って

後川内中学校 一年 郡山 信代

新燃岳が噴火した時、私は六年生でした。学校から帰る途中に、真っ黒い雲がわいてきて、雨が降るのかなと思っていたら、山から煙が出ていて、びっくりしました。父と山がよく見える場所へ行き、見ると空が暗くなって、とても怖かったです。

噴火の後、一番大変だったのは、灰の片づけでした。火山灰はとても重く、硫黄の臭いがきつかったからです。学校にも車で送迎してもらったことになりました。

新燃岳の噴火によって、全国からはげましの言葉や支援をいただいたことは、とても嬉しかったです。私達も避難している子ども達へ、全校の児童が一つになって学用品などを集めました。その後、狭野小学校に届けることができ、いい経験になりました。

東北の方々も辛い思いをされています。私達も噴火に負けず、頑張りたいです。



新燃岳の噴火について

高原中学校 二年 桑原 咲

一月二十六日。あの時の新燃岳大噴火から、高原町は火山灰で包まれました。農作物、車にも灰がかぶさっている状態で、新燃岳は毎日のようにテレビで放送されました。七ヶ月たった今では、普段の生活に戻っていますが、いつ大きな噴火が起きてもおかしくない状況が続いています。

そんな、不安でいっぱい高原町民は、全国からあたたかいご支援を受けました。一番大きかった噴火では、新燃岳の近くに住む町民に一時避難勧告が出されました。そんな時、全国から多くの物資が届けられたそうです。私は、新燃岳からわりと遠い所に住んでいるので、避難はしませんでした。しかし、学校給食で、とてもありがたい物資をもらいました。当時は、学校の給食室にも火山灰が入りこみ、調理することができない状態でした。何日かは、パン、バナナ、ヨーグルトと、かなり厳しい献立でした。その時、ドーナツや東北からの果物が届けられ、また、それと同時に、メッセージやマスク、千羽鶴まで届きました。とてもうれしくて元気が出ました。やっぱり、助け

合いですごく大事なんだと改めて思いました。現在は、東日本大震災もおこり、一刻も早い復興へ、みんなが「心をふとつに」と助け合っています。新燃岳の噴火で、東北の方からもたくさんメッセージをいただいています。今度は、私たちが元気づける番だと思います。これこそが、真の「助け合い」だと考えます。



新燃岳噴火を通して

高原中学校 二年 増田 翔吾

僕は、新燃岳噴火を通して学んだことが三つあります。

一つ目は、自然の力によって、自分達の生活が大きく変わることです。噴火による降灰や噴石などで、町中が灰に覆われ、自転車での登校もできず、僕の住んでいる北狭野地区では避難をよぎなくされることになりました。幸い、僕は小林に祖父母の家があったため、そこに避難することができましたが、ほほえみ館に避難した人達は、他の人達との共同生活でゆっくり休めることもなく、大変な思いをしたと思います。

二つ目は、噴火が落ち着いた後、灰の除去作業をしたことです。前日に雨が降ったために、灰が水を含んで、とても重くなっていました。屋根から灰を落とすのがとても大変で、なかなか思うように作業が進まず、想像以上の時間がかかってしまいました。

三つ目は、支援されることのありがたさです。全国からたくさんさんの支援物資が運ばれ、マスクや励ましのメッセージをいただき、人の心のあたた

かさを感じる事ができました。

これからも、土石流や噴火など心配なことはたくさんあります。しかし、日本全国の人々の心のあたたかさを忘れずに、くじけず、力を合わせてがんばっていききたいと思っています。



新燃岳の噴火で考えたこと

高原中学校 二年 福丸 菜摘

新燃岳の噴火・・・それは、私たち家族を狂わせる大変な出来事でした。

今年の一月、新燃岳が噴火し、私たちの家族は、避難所での生活をするようになりました。

避難所では、ごはんを食べる時も、勉強する時も、寝る時も、一日中同じところで過ごしていて、とても大変でした。

その時は、学校での生活でも、授業はぜんぜん頭に入らず、友だちとしゃべっていても、家族のことが気になり、いつもうわの空でした。そして、ストレスがたまって体調をくずしてしまい、今までにかかったことのなかった病気になったり、イライラしたりと、とても気分が悪い日が続きました。

でも、そんな私を元気づけてくれたのが、日本全国のいろんなところからの手紙や様々な支援物資でした。

私は、その手紙を読むたびに、励まされ元気づけられました。

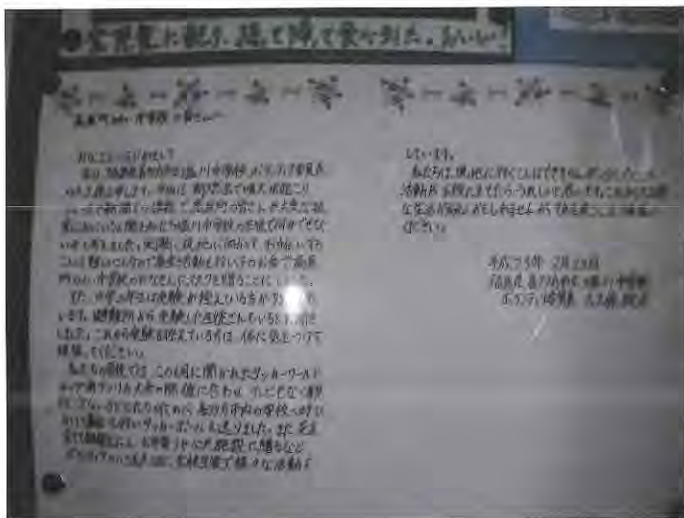
そして、支援物資をもらうたびに、

(あく、全国の人も、一生懸命、頑張っているんだなあ、私も頑張らないとなあ)

という気持ちになれて、とても頑張れました。

私は、この新燃岳の噴火で、やっぱり、人は人に支えられないと生きていけないんだなあと改めて思いました。

これから先、また、いろんなことがあると思います。私も、人に頼られるような、人を支えられるような、役に立てる人になりたいです。



噴火を通して

高原中学校 二年 前原 唯乃

今年一月、高原町がテレビで大きく取り上げられました。最初に噴火をしたのは、二十六日。それからしばらくは爆発的な噴火が続き、すぐに大きなニュースとなりました。テレビをつけると、どのニュース番組でも噴火が取り上げられていて、自分の住んでいる町でおこっているという現実感がまったくありませんでした。しかし、すぐに学校は休校となり、学校へは行けても部活ができず、降灰の被害に悩まされました。私の住んでいる地区は、避難が必要な地区ではなかったけれど、噴火による空振で夜眠れない日もありました。毎日マスクをして、登下校は車で、とても不自由でした。

そんな大変な状態が、今ここまで戻っているのは、やっぱり支援があったからだと思います。道に積もった大量の灰を、ボランティアの方がきれいに掃除してくださり、マスクやビニール袋などの物資もいただきました。給食が作れない日には、みかんやドーナツなどの食べ物も支援していただき、とてもうれしかったです。北海道や青森県

など、遠くの方からのメッセージなども届き、本当にありがたかったです。三月十一日の東日本大震災では、多くの方が犠牲になり、大きな被害をもたらしました。噴火とは、比べものにもならないくらい大変だと思うので、噴火ぐらいで、負けてはいられないと思いました。

私が、噴火を通して一番学んだことは、助け合うことの大切さです。テレビでよく、「ひとつになろう日本」と言っています。噴火も、たくさんの方々からの支援があって、たくさんの方がもとに戻そうと、協力し合ってがんばってきたから、今の状態になったと思います。一人ひとりが協力し合って、みんなのために動ける人になれば、何があっても、乗り越えられると思います。

新燃岳の噴火

高原中学校 二年 春山 華穂

今年一月二十六日、鹿児島県と宮崎県の境にある新燃岳が大噴火しました。五十年前に起きた事が、今、現実に関自分の近くで起こっている事にただびっくりするばかりでした。その日は、噴煙が空の上を覆って暗くなりました。あのとときの怖さは、今でも忘れられません。その次の日も、大噴火があり、すごい勢いで噴煙が上がり、噴煙と同時に噴石が飛んでいました。私が一番怖い思いをしたのは、夜中に噴火したときです。寝ている時、急に窓が空振でガタガタと音をたてて揺れました。そのガタガタという音と揺れはいつこうに止む事がなく、時折激しい音がして、このままどうなってしまうのだろうか、とても怖い夜でした。そんな思いをしている時、両親に起こされ、家の中にある食糧などを袋に詰め、避難の用意をしました。お父さんは、何度も外に出て山の方を見ていました。しかし、私達の家は避難せずにすみませんでした。私達の地区が避難する事はありませんでしたが、祖母の家は避難地区で、避難をし、今はそのまま、私の家で生活をしています。

今は、時々小さい噴火があります。七月の初めに硫黄の匂いがしました。先生が、「また噴火するかもしれない。」と話されていました。もし、一月二十六日の噴火よりもっと大きな、五十二年前のような大噴火が起こったらどうなるのだろうかと考えました。

あの噴火が起きてから、私達は、たくさんの方の支援助物をいただきました。火山灰で困っていた私達にとって、とてもありがたかったです。三月十一日に起きた東日本大震災はこれ以上の被害です。

私がこの新燃岳の噴火で学んだことは、私達は色んな人から助けられ、人はつながっているんだという事です。「つながっていること」、その事を忘れず、今度は私が助ける人になりたいと思います。



新燃岳噴火

高原中学校 二年 尾曲 晃成

空を見上げると新燃岳の方から黒い煙のようなものがモクモクと上がっていました。そして、あつという間に真上に来ていました。

それは、新燃岳の噴火でした。

一時して、夜中に僕たちは避難することになりました。

急なことだったので、何を持っていけばいいのかわかりませんでした。

ぼくは、ばあちゃん家に避難しました。ばあちゃん家からも、赤くなった噴石や稲光などが見えました。

学校にも、支援物資がいろいろ届き、他県中学校などからも千羽鶴などがどきました。すごくうれしかったです。

また、いろいろな人たちがボランティアで火山灰の除去作業をしてくれたりしました。

部活動も、外の部活は練習できなかつたりしました。

雨どいに火山灰がつまらないように、家の屋根にも何度が上って火山灰を取りました。車で買い

物などに行く時も、前に車があると、火山灰が舞い上がって前が見にくくなり大変そうでした。また、洗濯物も外に干すことができなくて、ほぼ毎日家の中で干していました。

ばあちゃん家でも、育てていた多くの野菜がダメになりました。

ぼくは、この時に来てくださったボランティアの方のように、すぐに行動に移せるような人になりたいです。いろいろなことで助けられたので、今、東日本大震災で被害にあわれた方々には自分なりにできることをしたいです。



新燃岳噴火を体験して

後川内中学校 二年 星牟禮 望聖

一月二十六日、新燃岳が噴火した時、私は体育館で部活動をしていました。練習中、少し空が暗くなり、地響きがありました。先生から下校しなさいと言われ、少し不安に思いながら皆と帰りました。すぐテレビを見て、新燃岳のことを知りました。それから、臨時休校になるなど、口蹄疫に続いて二度も大変な経験をするようになりました。

けれども、遠い中学校から、励ましの手紙や募金が届き、とても嬉しかったです。今でも小噴火があり、またいつ大きな噴火が起きるのか分からない状態ですが、東北の方々はもっと大変だと思います。私達がいろいろと助けてもらった分、私もできるだけのことをしたいと思いました。

自然災害は、いつどんなときにやってくるか、予測することは難しいそうです。しっかり心構えをし、対策を考えたいと思います。



幸せな日々を大切に

高原中学校 三年 古川 陽菜

一月二十六日、まだ学校にいる時、空が急に暗くなりました。「黒っぽい雲だから、雨が降るかな。」そう思っていた私は、噴火したことなど知らずに過ごしていました。すると、先生や友達が、「噴火だよ。」

と慌てた声で言いました。さっき私が黒い雲と思っていたのは、噴煙だったのです。学校の上空はもちろん、高原町の空全体を覆いつくす噴煙を初めて見て、すごい恐怖感をおぼえました。あの時の気持ちは今でも忘れません。

家に帰ってテレビをつけたら、全国ニュースの速報で噴火のことを伝えていて、その大きさを知りました。その日から、学校が休校になったり、避難や避難準備情報が発令されたりと、私たちの生活は噴火によって大きく変わっていったのです。

噴火という自然災害を初めて経験して、あたり前があたり前でなくなることに、今まで幸せな生活を送っていたことをすごく痛感しました。毎日学校へ行き、家に帰ってご飯を食べて寝る、そんな

あたり前のことなのに、いつも噴火と隣りあわせ、夜は空振や噴火の音で眠れないなど、あたり前はどこにもありませんでした。また、全国から励ましの言葉や支援物資をいただいたり、灰の除去のボランティアに来ていただいたりして、とても温かい気持ちになりました。

噴火で学んだ二つの感謝、それは生きていることへの感謝と、周りの人々への感謝です。これからも噴火への不安な日々は続くけれど、ここに生きている幸せを感じながら、噴火に負けない心で、笑顔で生活していきたいです。



新燃岳噴火で感じたこと

高原中学校 三年 廣山 直輝

一月二十六日に新燃岳が噴火して、もうすぐ半年が経とうとしていますが、まだあの日のことを、はつきりと覚えています。僕は、多分大人になっても、あの日のことを忘れられないと思います。

あの日はいつもと変わらない穏やかな日でした。でも、部活の途中くらいから、雲ではない、黒い雲のようなものが空に浮かんでいたのを覚えていきます。僕は、何が起こったのか全くわかりませんでした。

噴火した次の日からは、灰の除去や避難をして生活をしました。僕の家は、避難対象の地区にはならなかったけれど、毎日のように灰が降り積もりました。灰を除去しても、次の日にはまた灰が積もっている、そんな感じでした。学校に行く時も、マスクをつけなければならなくて大変でした。

今、新燃岳は落ち着いていて、前のように大変ではありませんが、今だにあの日のことは忘れられません。というよりも、忘れてはならないのかもしれません。

あの日の噴火が起きたのは、日々何事も不自由

なく暮らしている、その大切さを忘れさせないためだったのではないかと思っています。

僕は、あらためて今の生活に感謝しなければならぬと思います。

これからは、あの大変な時期を思い出しながら、自分が生きていることを感謝して、日々の生活を送りたいです。



新燃岳噴火を通して

高原中学校 三年 亀田 良平

今回の新燃岳の噴火には、とても驚きました。生徒はみんな学校にいたので、新燃岳の噴火による灰が空を覆っているのを見て、家の事などをも心配したと思います。僕の家は新燃岳とは正反対の方向にあるし、とても離れていたけど、やはり灰が来ていて驚きました。家に帰ってニュースを見ても、その事が報道されていたし、新燃岳の近くに住んでいる人はどうするんだろうと思っていました。中には、避難勧告が出されて、高原小学校の近くにあるほほえみ館や各地区の決められた避難所、親戚の家から学校に通ってくる生徒もいて、大変な思いをしているなあと思いました。しかし、この新燃岳噴火を経験して、とても心に残る事がありました。それは、全国各地から、この高原町やその他の被災地に支援物資や手紙が送られてきた事です。中には折り鶴もありました。この事から、遠く離れた所からでも、この宮崎のことを想ってくれている人達がいるんだと感じました。

そして、このような自然災害がもう一つ起こり

ました。東北地方の大地震です。噴火ではないけれど、この地震では多くの死者、行方不明者が出てしまいました。支援物資や手紙を送ってくれた方々も被害に遭われたのかと、とても心配しています。新燃岳噴火の時のように避難生活をしている人達もいて、心を痛めました。それでも、全国各地から募金や物資が送られていて、同じ気持ちになりました。

この新燃岳噴火の経験や東北地方大地震を通して、自然の恐ろしさや人の気持ちを想ってがんばり続ける人間のすばらしさが分かりました。



新燃岳噴火を通して

高原中学校 三年 田上 奨

それは突然、何の前触れもなく起きたのでした。僕は部活をしていて、学校の校庭にいました。すると、新燃岳は、轟音とともにすさまじい量の煙と火山灰を一勢に吐き出し、噴き出し、今までの静かで雄大な新燃岳がまるで嘘だったかの様に変じて、僕等、新燃岳周辺全ての人間に牙をむきました。

その日の夜、噴火でとても眠ることができず、外を見てみると、何と新燃岳の噴火口からすごい量のマグマが見えました。その時、生まれて初めて新燃岳などの自然の脅威を感じて、恐怖を覚えました。

翌日、外はすさまじい火山灰で前が見えない状況で、学校は休校になりました。僕は、これからの事を考えると、とても不安で心配だったのを覚えています。

それからも幾度となく新燃岳は噴火を繰り返して、そのたびに火山灰に苦しめられ、時には部活の試合や生活に支障をきたすこともありました。何度も負けそうになり、くじけそうになりました。

でも、僕達は諦めませんでした。それは、ニュースの報道を見て知った人々が、全国から温かいメッセージを送ってくださったり、色々な方々から支援物資をいただいたりと、様々な面で協力してくださったからでした。特にマスクはとても貴重で、火山灰を吸うことなく安全に生活を送ることができ、本当に感謝しています。

日本は今、「東日本大震災」というとても大きな、そして苦しい壁に直面しています。暗く長い道のりで、全ての意味で「復興」するのはいつの日かは分かりませんが、止まらない雨はありません。今こそ、僕達がしてもらったことを恩返しする時だと思えます。困難や課題から逃げずに、真正面から向き合い乗り越えていくことで、学んだりつかんだりするものがあると思えます。

その事実を受け止め、生きてゆく大切さを、僕はまた一つ学んだと思います。

新燃岳の存在

高原中学校 三年 前原 彩乃

一月二十六日。新燃岳が大爆発した日。この日見た新燃岳の上空は、今までに見たこともない空で、火山灰がまるできのこ雲のように上っていました。私は、自分の身近でこんな事は起こらないだろうと思っていました。まさか、こんなにすごいことが起きてしまうなんて。それから噴火の起こる日々は、私たちにとって味わったことのないもので、とても貴重なものになりました。

私たちは修学旅行で長崎の雲仙岳災害記念館へ行きました。その時に見た映像は、私にとって衝撃的なもので、こんなに恐ろしいことが本当にあったのだろうかと思うほどでした。その時に友だちと、

「霧島がもしこんなになったらどうする？」
「ま、ありえんでしょ。」

という会話をしました。まさか、身近でこんな事が起こるとは誰も思わなかったと思います。修学旅行から一ヶ月少し過ぎたころ、あの時見た光景を見ることになりました。何日も激しい噴火は続き、夜も空振で眠れない日がありました。学校も

休校になったり、学校でマスクをする日々が続きました。こんな生活は不便で大変だったけれど、私たちが人の優しさを知るきっかけにもなりました。たくさんの人たちからの支援。私たちは人々の優しさによって、この生活を乗り越えることができました。普段はあまり意識しない、「助け合い」「優しさ」のありがたさを強く感じました。

今の新燃岳は落ちついていて、私たちもあの日のことを忘れつつあります。しかし、いつ大爆発するか分からないので、日頃から考えていかないといいけません。そして、助け合いや優しさは忘れないようにしたいです。



被災者の気持ち

高原中学校 三年 廣田 祐樹

今、人ごとだと思っていた事が目の前で起きました。それは、新燃岳噴火でした。その日は学校の日で、いつも通りの、いつもの生活を送るはずでした。でも、この日はいつもと違って、山が黒い煙を「これ、いつまで続くんだろう。」と思うくらいに、ずっと出していました。時には、「ゴロゴロ。」と雷の音がして、何だろうと思つて見ると、黒い煙の中で、火山灰がこすれ合い、雷が見えることがありました。僕は、初めての体験だったので、気持ちが悪くわくわくしていて、自然災害をすごく甘く見ている自分がいました。

それから、噴火は続き、昼夜関係なく、「ドーン、ドーン」と爆発して、迷惑なくらいでした。夜、寝ている時にも爆発し、「空振」といって、窓ガラスが揺れて、時には割れてしまう事もあったそうです。これが何日か続きました。雨が降った日に、夜中二時くらいに玄関で「コンコン。」と音がしました。家族みんな、びっくりして飛び起きました。そして、玄関を開けると、おじいちゃんが立っていました。

すると、おじいちゃんが

「雨が降っていて、土砂崩れが起きるから避難しろ。」

と言いました。それを聞いた時はびっくりしました。

考えていない事が起きたので、家族みんな、慌てて荷物をまとめて、近くの「ほほえみ館」に行きました。そこには、小さい子どもから、お年寄りまで沢山の人がありました。正直、家にいた方が良かったくらい、うるさくて眠れませんでした。その後は、いとこの家に泊まり、やっと眠れました。結局、何も起こらなかったけれど、雨が降るたびに避難しました。初めて、自然災害の怖さを知りました。被災生活とは、いつ終わるか分からない火山活動の中、眠れない日々を過ごし、早く普通の生活に戻りたい、と強く願うことだと、僕は感じました。

新燃岳噴火の記憶

後川内中学校 三年 石山 梨帆

平成二十三年一月二十六日、新燃岳が噴火した。またたく間に青空が見えなくなり、辺りがどんよりと薄暗くなった。

夜、家中の戸や障子がガタガタと鳴り、恐ろしくて寝ていられなかった。「空振」という、生まれて初めての体験だった。真夜中二時頃、私達家族は外へ出て山の方を眺めた。遠く離れた後川内からも、赤い火柱がはっきりと見えた。体じゅうに鳥肌が立ち、自然の恐ろしさを初めて感じた。同時に、とても不安になった。山の麓の狭野地区は、以前住んでいた場所で、友達がたくさん暮らしている。みんな大丈夫だろうかと心配になった。一夜明けると、辺り一面、灰で別世界になっていた。目を開けていられない程だった。

私は、あの時のことを今もはっきりと思い出す。新米がとれるまで、この地に灰を降らさないでほしいと願っている。



高校生 の部

自分たちの活動を通して、今、私が思うこと

高原高等学校 一年 皿良 舞

「今、あなたができることは何ですか？」

私は車の運転ができません。私は人に分けてあげられるお金もありません。私は、普通の高校生です。でも無力ではありません。私は考えることができます。この一年間で、考えて行動することができるようになりました。

一年前、宮崎県で口蹄疫発生。街全体が白い石灰で覆われました。私が学ぶ高原高校の敷地内にも、牛や豚が飼育されています。毎日正門前で車両消毒にあたる先生方や生産流通科の先輩たちの姿を見て、何もできない自分が歯がゆくて仕方ありませんでした。

そのような中、食品化学科の先輩たちから、「口蹄疫で苦しんでいる農家の人たちのために、ビスケットを製造し、売上金を義援金として提供しよう。」という提案がなされました。私は、初めて人の役に立てると思い、その活動に参加しました。他にも多くの友達や先輩たちが参加し、私は、自分と同じように感じている人がたくさんいるんだと嬉しくなりました。入学したばかりの私たちは、

どのようにビスケットを製造するのか分かりません。先輩たちに尋ねながら、美味しいビスケットを焼き上げることができました。そして、自分たちの気持ち伝わるようにと応援メッセージを書いたラベルをビスケットの袋一つ一つに丁寧に貼り付けました。「口蹄疫で大変な中、少しでも力になりたい」と思い、義援金活動をしています。口蹄疫に対して、今、私たちができることをやっていますように。」

五月末の土曜日、高原町内で販売しました。最初は、「ちゃんと売れるかなあ」と不安な気持ちでいっぱいでした。けれども、次々にお客さんが来てくれました。「お釣りはいらさないから義援金の足しにして下さい。」と言って下さる方もいました。お客様の「口蹄疫の被害を受けた人たちのために何かしたい。」という思いを、私たちが製造・販売したビスケットにのせることができたことで、人のために役に立てるという自信を深めることができました。

やがて、口蹄疫も収まり、宮崎県が少しずつ元気を取り戻してきた矢先の一月二十六日、今度は新燃岳が噴火しました。噴石や灰が大量に振り、私が暮らす高原町は、空も地面も灰色に染まりま

した。火砕流や土石流から身を守るため、親戚やクラスの友達は避難を強いられました。いてもたってもいられず、「またビسケットを作って避難所に届けよう、義援金を集めよう！」そう思いました。けれども、相談した先生がおっしゃった言葉は意外なものでした。

「避難所の人たちは、本当にビスケットを必要としているのか。」

「お金を必要としているのか？」

「舞、おまえは実際に避難所に行ってみたかよっ？」

避難所になっている「ほほえみ館」は学校から自転車で十分ほどの距離。足を運んでみると、ホールや廊下は、毛布を敷いて不安な時間を過ごす人たちであふれかえっていました。同時に、大量のパンやおにぎりが積み重ねられているのにも目にしました。噴火から約一週間。すぐに様々な支援物資が全国から届けられていました。避難所で必要とされていたのは、物やお金ではありませんでした。「現場を見て行動しろ。」

「人に尋ねず自分で何ができるのかを考えて行動するのがボランティアだ。」という先生の言葉が

頭をよぎりました。

私はクラスの友達と約二週間、毎日、学校が終わると避難所に行きました。そこで、足が不自由なおじいちゃんに食事を運んだり、おばあちゃんの話し相手になったりしました。皆さんが笑顔で「ありがとねえ。」と言って下さったので、逆に元気をもらうことができました。活動する中で、福岡県の報道カメラマンの方とも話をしました。その方は、新聞を通して多くの人に現状を伝えたいと熱く語ってくれました。

多くの出会いを通して、あれもこれもはできないけれど、一人一人が自分の立場でできることをすればいいと気が楽になりました。

三月、避難が解除になり、噴火が少し落ち着いたら頃、私たちは再びビスケットを作りました。そして、昼夜を問わず、支援物資の取りまとめや被害者の救済にあたって下さった役場の方々に届けに行きました。

「いつもありがとございます。共に頑張りますよう！」とメッセージをつけて。

梅雨の時期は過ぎましたが、新燃岳周辺では土石流の危険性が今なお続いています。少し離れた

東北、遠く離れたニュージーランド、世界各地でも災害と闘っている方がたくさんいらっしゃいます。

高校生の私ができることは限られています。

けれども、何が必要か「見極め」「考え」「行動する」ことができます。小さなことから始めるボランティア。

人のためではなく、自分が成長するためにとって、今後も自ら考え行動を起こしていきたいです。

「今、あなたができることは何ですか？」



新燃岳の噴火を通して分かったこと

高原高等学校 三年 松田 裕司

一月二十六日、五十二年ぶりに新燃岳が噴火を起こしました。その時は、私たちは修学旅行で福島県に行っており、新燃岳が噴火したことを知ったのは夜中になってからでした。

いきなりの校長先生からの報告に、私たちはとても驚きました。高原町に住んでいる人が少なかったせいか、周りからは「ちゃんと宮崎に帰ることができるのか。」「どうやって宮崎に帰るのか。」という不安の声が聞こえてきました。私は、噴火は火山灰が降っているだけで大したことではないだろうと思い、帰宅の心配ばかりをしていました。そのため、先生から家に連絡を取るようにならされましたが、連絡をしないまま寝てしまいました。

次の日の夜、噴火のことがニュースで取り上げられるのではないかと思ひ、友達とテレビの前に集まりました。今になってみれば、本当にただの興味本位でしかなかったと思ひます。案の定、新燃岳はニュースに出ました。しかし、テレビに映ったのは、私達が想像していたのとは違って、真

っ赤な火口に火山雷が激しく落ちている光景でした。あまりの衝撃に言葉が出ず、「高原は大丈夫なのか。家族は大丈夫なのか。」という思いで頭の中はいっぱいでした。心配と不安とに駆られた私は、家に電話をしようと思ひ、一階の公衆電話まで走っていききました。すると、私と同じようにニュースを見たのでしよう、沢山の高原高校生が電話の前に列を作っていました。私に順番が回ってきた時には夜遅くになっていたので、家族は無事なのかということだけを聞きました。火山灰はすぐ降り積もっているが、幸いなことに家族は全員無事だということを知り、安心して部屋に戻ることができました。

修学旅行が終わり高原町に帰ってみると、辺り一面が火山灰で埋もれていました。視界も悪く、硫黄の臭いが充満していました。家に帰り着くと、家の庭や屋根も火山灰まみれで、これからの生活はどうなるのだろうか、再び不安な気持ちになりました。

実際に、火山灰のせいで、洗濯物を外に干せない、窓を開けられないなど、日常生活で当たり前になっていたことができなくなりました。学校でも、ヘルメットを着用したり、学校行事が中止になっ

たりと、大きな影響を受けました。また、高原高校の生徒の中にも、避難勧告を受けて避難所に避難している人がいて、「毎日が大変で、早く家に帰りたい。」と言っていました。

新燃岳の噴火を通して、自然災害の怖さと日常生活を取り戻すための大変さが身にしみて分かりました。加えて、普段の生活のありがたさや生きているということ、命の大切さが本当に実感できました。また新燃岳が大きく噴火するかは分かりませんが、今回の噴火を教訓にしながら、これからの生活を送ってゆきたいと思えます。

